アシュラム
ASHRAM
2026.11月第695号

発行所　アシュラムセンター
523-0894 近江八幡市中村町 567-2
Tel 0748-33-4030
Fax 0748-33-8856
アシュラムセンターホームページ
www.ashramcenter.jp
編　集　アシュラム誌編集委員会

振　替　01050-6-53772
アシュラムセンター
印　刷　明文舎印刷商事（株）

解　題

アシュラムとはインドの言葉で「退修」という意味で、スタンレー・ジョーンズ博士によって日本に紹介されたものであります。祈りの生活をもってみ前に自らを整え、今日に於ける主のご委託にこたえんというのがその願いです。

ヘブライ書には、「信仰とは、望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認することです」（ヘブライ11：1）という有名なフレーズがある。「確信」と「確認」。この似たような2つの言葉の原意は、それぞれ「土台とすること」また「明らかにすること」という意味があるそうだ。確信とは「望んでいるだけだったものに、確かな土台を与える」ことであり、確認とは「見えないものを、真実として明らかに証明する」ということになるのだ。

現在、私は沖縄の病院で、毎月コンサート活動を続けている。もちろん私は、医者でもなければ、演奏家でもない。ただチャプレンとして、それに関わっているのだが、音楽というものが、どれほど患者に対して影響を及ぼすことになるのかを観察しているのだ。病院とは、当然のことながらエビデンスが求められる場所だ。音楽を聴いた患者にどのような変化があったのか。表情、発語、開眼、身体の動きなど、観察できる事実を丁寧に記録する。医療において、見えるものを見落とさないことは大切なことである。しかし、宗教者として患者の傍らに立つ時、もう一つの別の視点があると思う。果たして見えるものだけが、その人に起こっていることのすべてなのだろうか、と。

「看護」の「看」という字は「手」と「目」からできている。手を添え、目を凝らして患者を見る。それは単に観察することではない。手を差し伸べながら見ることであり、一人の人の傍らにあって、

瞑想

この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでしたが、はるかにそれを見て喜びの声をあげ　（ヘブライ11・13）

主幹牧師　榎本　恵

その人を「看る」ことである。人生の終わりに寄り添う「看取り」、「エンド・オブ・ライフ・ケア」とは、まさにこの「看る」ことではないだろうか。見えるものを見落とさない医療と、見えないものを見失わない宗教。それは決して対立するものではないだろう。「確信」と「確認」が別々のものではないように。

病が進み、歩けなくなり、言葉を失い、やがてこちらからの呼びかけにも応えられなくなる人間の存在。しかし、「できること」が失われていっても、その人自身が失われるわけではないのだ。その人には生きてきた人生があり、喜びや悲しみがあり、祈りがある。そして何より、その人を知り、その名を呼んでおられる神がおられる。音楽実践でも、明確な反応が見られないことがある。しかし、反応が見えないことと、何も起こっていないこととは同じではない。私たちには聞こえない歌を、その人の魂は歌っているかもしれない。見えないところで、神がその人に触れておられるかもしれない。

そんな中、ヘブライ書は不思議な言葉を語る。「この人たちは皆、信仰を抱いて死にました。約束されたものを手に入れませんでしたが、はるかにそれを見て喜びの声をあげ」（ヘブ11：13）た、と。約束を手に入れずに死んだのである。祈りがすべて叶ったわけでも、人生が思い通りに完成したわけでもない。それなら無念の死であったのか、否決してそうではない。彼らは「はるかにそれを見て喜びの声をあげた」のである。近くを見れば、老いがあり、病があり、死がある。しかし信仰は、そこで視線を止めない。はるかを見る。「更にまさった故郷、すなわち天の故郷」を見るのである。

看取りとは、死に逝く人を見ることではない。最期までその人を見失わないことである。そしてその死という現実を見落とすことなく、それでもなお、その向こうにある神の約束を見失わないことである。見えるものを見落とさず確信し、見えないものを見失わず確認する。これこそが、土台であり、証明なのだ。ヘブライ書の言う信仰とは、このことに他ならない。

友よ、私たちもまた、この望んでいる事柄を確信し、見えない事実を確認する信仰を持って、喜びの歌を歌うものとなろうよ。

三重一日アシュラムの恵み



平井　ふみ子

今年、6月6日津ルーテル教会で開催された第30回三重一日アシュラムに参加させて頂きました。

2022年4月に津ルーテル教会に転籍させて頂き、今年3回目の参加でした。

今年の主題は「一行が歩いて行くうちに、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを村に迎え入れられた。」ルカ10：38

私にとってこのみ言葉は、今年2月に、ある信徒の方のお話で課題となり、疑問を持っていました。その思いを引きずりながらモヤモヤした気持ちで過ごしていました。

4月29日に教会合同で行われた女性連盟大会の主題がディアコニアについてでした。講師の正木うらら先生が思いがけずこの「マルタとマリア」の箇所を詳しく解き明かして下さいました。この時は、主が私のために備えて下さったとさえ思ったほどです。

ところが、6月6日のこの日のアシュラムでも同じ箇所で、恵先生がお話して下さいました。正木先生と恵先生のお話は共通していました。マリアが主の足元で主の言葉を聴く姿、沢山の客のために一生懸命働くマルタの姿が浮かんできます。主は、マルタをいさめておられたのではなく「マルタよ、マルタよ」と優しく2回呼びかけておられます。

主は私にも「ふみ子よ、ふみ子よ」といつも語りかけて下さるのです。とても不思議な体験をさせていただきました。

アシュラムのことは、ようやく解かりかけてきたような若輩者ですが、今後も場に加えて頂いて、祈り、主のみ声を聴いていきたいと願っています。

（近畿福音ルーテル教会）（写真恵師右隣）

第2回こどもアシュラムに参加して

田口　和子

あの場所に行くと、何かいつもほっとします。

今年は、小さなお池の中に赤いハスが咲いていましたね。ハスの葉の上にカエルが2匹ピョコンと顔を出していました。お庭の緑の木々も、古い家の佇まいも、中庭の大きな石も、真白の百合の花も、そして何より、スタッフの皆さんが私達を笑顔で迎えて下さいました。孫達は、1年ぶりに他の子達と再会し、一緒に遊び、去年よりもっと仲良くなれて嬉しそうでした。

ヴォーリス学園のハンドベル部のお姉さん達の本物の生演奏「さとうきび畑」などをすぐ間近で聞かせていただいたり、けん玉の先生と達人のお兄さん達が現れて、その凄腕に触発されて、子供たちも教えてもらいながら何回もけん玉に挑戦したりしました。私もけん玉をしてお皿に玉が乗ったのは、人生初めてで嬉しかったです。夜は「ヨセフものがたり」の映画を見て感動しました。子供達の心にも、きっと何かが残っただろうなあと思います。

今年のこどもアシュラムの主題聖句は「喜ぶ者と共に喜び、泣く者と共に泣きなさい」でした。るつ子さんが〝ぼくのきもちはね〟（コリ・ドーフェルド作、石津ちひろ訳）の絵本を読んでくれました。もう絶版になっているという事でしたが、娘のあかねが、家

に帰ってすぐ図書館へ行き、探して借りて来ました。

先日、下の孫が、「おばあちゃん、オキノドクってどういう意味？」と私に聞きました。主人公の男の子が作ったお城がばらばらに壊されて、落ち込む男の子にニワトリがやって来て言うのです。「あらまあ、ざんねんだわね。ほんとにほんとにおきのどく！」言葉だけで慰めようとしたり、自分の考える解決方法を押しつけようとしなくても、何も言わずにその人のそばに寄り添うウサギさんのようになれたら、そうしてもらえた人はどんなに嬉しいことでしょう。どんなに励まされることでしょうか。

〝ウサギは、とてもしずかにやってきた。だからテイラーは、ウサギにきがつかなかった。テイラーは背中があったかくなって、はじめてウサギがいることにきがついた〟（絵本より抜粋）。ここを読んでいたら、自分の背中にもウサギさんの温かさが伝わって来るような気がしました。

人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。という聖書のみ言葉が浮かんで来ました。一日間、楽しい時間と沢山のお恵みをありがとうございました。

（日本福音ルーテル大垣教会）



夜、高校生の皆様のチャイム演奏、けん玉の技！ワクワクのひととき

大阪聖書教室に感謝①

唄野　絢子

昨日は遠いところ皆様で大浜教会までおいでくださり、大阪聖書教室をひらいてくださいましたこと心から厚く御礼申し上げます。大浜の方々も大変よろこんで感謝しております。

マタイ28章の復活のところでした。先生のお口からも皆さまの分かち合いのときも「真実」ということばが何度も語られたことが耳に残っています。

藤井武（内村鑑三の弟子）の「詩の観念について」にこんな一文があります。

「我らは空しき世に住む、我らの経験は甚だ実在性に乏しい。我らは大抵人生の浅瀬を渉っている。併しながら時として我らも亦深き実在に触れることがある。天の国の空気を呼吸することがある。その時、詩は自ら我らの唇に湧く。

最初の人アダムが佳耦（良き妻）を得た時に彼に詩があった。（これこそ今や私の骨からの骨、私の肉からの肉、これを女と名づけよう、これは男から取られたのだから。）↑人類初のラブソングですね。

イスラエルの民が紅海を渉り終えた時に彼らに詩があった。（そこでモーセとイスラエル人は、主に向かってこの歌を歌った。「主に向かって私は歌おう。主は輝かしくも勝利を収められ、馬と乗り手とを海の中に投げこまれたゆえに。主は、私の力であり、ほめ歌である。主は、私の救いとなられた。この方こそわが神。私はこの方をほめたたえる。」）

（つづく）

（堺大浜キリスト教会）



金山良雄会長を偲んで

敬愛するムラサキスポーツ金山良雄会長が、天に召された。

金山会長には、私たち親子二代にわたり、深いご厚情を賜った。父・榎本保郎牧師の時代からアシュラム運動を理解し、19回を数える日光オリーブの里でのアシュラムを応援くださり、また、アシュラムセンターの働きにも惜しみないご支援を寄せてくださった。

しかし、何より忘れがたいのは、クリスチャン実業家としての謙遜なお姿である。

会長は、榎本保郎牧師と金田福一牧師を「人生の師」と仰ぎ、「二人が敷いてくれたレールの上を、自分は走ってきただけです」と語っておられた。大きな事業を成し遂げられながら、その歩みを決して自らの力によるものと誇られなかった。

そして何より、受けた恩を決して忘れない方であった。二人の牧師が天に召された後も、その遺された働きと、後に続く私たちを変わることなく見守り、支え続けてくださった。

聖書には、主イエスによって癒された重い皮膚病を患った十人のうち、感謝するために戻ってきたのは、ただ一人であったと言う記事がある。人は神ではない。しかし、この聖書の物語を思うとき、受けた恵みを忘れず、感謝を生きることの尊さを思わずにはいられない。



榎本保郎師召天35周年記念会にて（2012.11）

金山会長は、まさに恩を忘れない方であった。そして、ご自身が受けた恵みを、次の世代へと惜しみなく手渡してくださった方であった。

会長が歩まれた道、その志は、これからも多くの人々の中に受け継がれてゆくことだろう。

金山良雄会長のご生涯を偲びつつ、深い感謝と敬意をもって、神のみ手にお委ねいたします。

2026年度 アシュラムの天上の友を憶える日礼拝

今年も、「天上の友を覚える日」礼拝を執り行います。

この一年の間に天へと召されたアシュラムの友を覚え、そのお一人おひとりの歩みと、与えられた恵みに感謝しつつ、共に祈りを捧げる時を持ちたいと願っております。

ご遺族の皆様をはじめ、アシュラムにつながる多くの皆様と共に、天上の友を偲び、主にある慰めと希望を分かち合うひとときとなれば幸いです。

皆様のご参列を心よりお待ち申し上げております。

アシュラムセンター主幹牧師　榎本恵



中道晴夫兄作
（2023.6.7召天日）

日時：2026年11月21日（土）　pm２:00より



場所：シメオン黙想の家、庭
〈住所〉近江八幡市土田町1191
〈お問い合わせ〉
Tel 0748-33-4030（アシュラムセンター）
Tel 080-3983-8140（榎本 光太）
（JR近江八幡駅にお迎え可能。前もってご連絡下さい。）

野外礼拝の予定です。平服でお越し下さい。天上の友の写真をお送り、又はお持ち下さると幸いです。



昨年の礼拝、シメオン庭

召天者名（敬称略）	召天日		召天時在住地
横山　義孝	2025. 4 . 16	98才	東京
直田　道子	2025. 8 . 28	93才	三重
沖田　泰弘	2025. 10. 2	87才	広島
川尻　精記	2025. 11. 22	87才	北海道
木下　光江	2025. 12. 19	89才	埼玉
米田　康子	2026. 2 . 6	82才	奈良
藤本喜代枝	2026. 2 . 19	94才	石川
東　　洋一	2026. 3 . 9	88才	滋賀
武田　多美	2026. 6 .	91才	兵庫
鈴木　一志	2026. 8 . 1	87才	京都
山田　秀穂	2026. 7 . 25	90才	兵庫
正岡リツコ	2026. 8 . 1	99才	（愛媛）
金山　良雄	2026. 9 . 20	94才	東京

（➡天上の友、未記載の方おられましたらご一報を。）

シメオンの風14 「空の鳥、野の花」　市橋 恵子


ソローの小屋と筆者

個人的な話で恐縮ですが、「小屋」とか「庵」とか呼ばれる建物に憧れます。下鴨神社の境内にある鴨長明の「方丈庵」は散歩がてらによく訪ねます。庵には板の間に囲炉裏があるだけ。思想家ソローが住んだアメリカ東海岸の森の中にある「ウオールデンの小屋」にも、渡米の度にでかけました。ソローの小屋には椅子と机、ベッド、そして皿とスプーンとコップが一つずつ。人が食べて寝るためだけに必要なミニマムの機能があるだけ。ヨーロッパにある中世の修道院の僧が住む個室は「cell-セル」とよばれ、これはのちに医学用語の細胞という意味に転用されました。フィレンツェの修道院のcellにはベッドと壁にかかったキリストの磔刑図だけがありました。

小屋や庵といかないまでも、最近、流行りのTiny House（狭小住宅）に持ち物を少なくして住めたらいいなと夢を見ます。そのためには大量の自分の持ち物とオサラバしなければなりません。断捨離とやらをある程度やってはみても、自力では抱えきれないほどの手放せない荷物。一つ減らせばまた一つ増えています。

リトリートでシメオンやアンナに滞在されるとき、皆さんは何をもって来られるでしょうか？年を取って心配性になった私は、スマホにハンドクリームに湿布薬に……もしもの時のこまごまな余分の荷物が増えました。空の鳥や野の花を養われる主のみ言葉を信じて、いつか歯ブラシと着替えと聖書だけをもって滞在してみたいです。

いえじま 雑記39 「友」

「聴く隣人のいるところ」という映画が公開されています。僕の母校である愛真高校の1年間をうつしたドキュメンタリー映画で、監督は同級生の早川嗣くんです。全校生徒五十人にも満たない小さな高校で共同生活をする高校生たちが、真摯に言葉を語ろうとする姿が印象的な映画です。もしお近くの劇場などで公開されていたら、ぜひ観に行ってみてください。

卒業以来、同級生と会うことはほとんどありませんでしたが、映画が公開されたこともあって、最近はかつての同級生との何十年ぶりの再会が続きました。まずは早川くん。沖縄での上映に合わせて、伊江島まで家族で尋ねてくれました。それから山元くん。彼は熊本の山都町で人気のドーナッツ屋さんを営んでいます。ちょうど先日、九州を旅することがあって、彼のお店に立ち寄りました。その旅の最後に泊まらせてもらったのは、古賀くんの家。彼は福岡の自宅の工房で、コップやお皿などガラス作品を作っています。寝食を共にしていた20年前には想像もできなかったような未来を生きる3人と再会し、不思議な気持ちになったり、励まされるような気がしたり。会いたい友とは会えるうちに会ったほうがいいですね。


【空（6才）のしりとり】ねこ（前号は？〝きつね〟でした）

榎本 空（ノースカロライナ大学院生、翻訳家、沖縄伊江島在住）新しい訳書が出ます。何卒。

あとがき

8月、札幌1日アシュラムが開かれた。コロナ禍以降、なかなか一堂に集まることが難しくなっていたが、北海道の友の熱い祈りと支えによって23名の友が集い、再びアシュラムの時を持つことができたことは、大きな感謝であった。

今後、札幌アシュラムをセンター主催のアシュラムとして継続していくことも常任運営委員会で決まり、阪神、福岡、四国、三重に続いて、北海道でも地域アシュラムの火を守り続けていきたいと、祈りつつ備えている。

そこで今、新しい計画を考えている。沖縄巡礼の旅のように、札幌アシュラムの前後に北海道を巡る旅を組み合わせるというものである。

北海道には、もちろん美しい自然や数多くの観光地がある。しかし、アシュラムの旅として訪ねるならば、もう一つの北海道を歩いてみたい。北の大地に蒔かれ、受け継がれてきた「信仰の系譜」をたどる旅である。

旭川の三浦綾子先生ゆかりの地、知里幸恵とアイヌ民族の文化、明治期に北海道へ渡り、福音と共にこの地を拓いたキリスト者たちの足跡、北限のヴォーリズ建築ともいわれる北見のピアソン宣教師館、そして「朝の祈り」を描いた林竹治郎画伯ゆかりの地など、訪ねたい場所は尽きない。

旅とは、知らなかったものに出会うことである。そして時には、「知らなかった」では済まされないことに出会うことでもある。北海道の大地を歩き、そこに生きた人々の声に耳を傾けながら、私たちが知らなかったこと、そして今こそ知らなければならないことを教えていただく。そんな「信仰の旅」にしたいと願っている。

札幌で灯されたアシュラムの火を囲みながら、北の大地に刻まれた信仰の足跡を共にたどる日を、今から楽しみにしている。どうぞご期待いただきたい（恵）



主を喜び祝うことこそ
あなたたちの力の源である
ネヘミヤ八・一〇　榎本恵子

中止、又はオンラインに変更もあり。
ホームページ、電話等でご確認下さい。直前の変更の場合あり！

【主な問い合わせ先】0748－33－4030 アシュラムセンター
【Zoom・インターネット等 問い合わせ先】080－3983－8140

11月の聖書教室など

3(火)	Zoom聖書教室（Zoom PM7:30）
6(金)	阪神ミニアシュラム（神戸聖愛教会 PM1:00）
9(月)	福岡聖書教室（福岡中部教会 PM1:30）
17(火)	大阪聖書教室（大阪クリスチャンセンター AM10:30）
18(水)	みんなのカフェちいろば聖書入門講座（京都・伏見区深草 PM1:30）
20(金)	センター聖書教室（アシュラムセンター AM11:00）
21(土)	天上の友を憶える日礼拝（シメオン黙想庭 PM2:00）
22(日)	ちいろば牧師記念チャペル夕礼拝（PM5:00）
23(月)	静岡聖書教室（旧・英和女学院宣教師館 AM10:00、PM1:30）
24(火)	東京聖書教室（御茶ノ水クリスチャンセンター４F AM10:30）
24(火)	しみじみする会（桜美林大学 荊冠堂チャペル PM2:30）

11月のアシュラムなど

2(月)〜4(水)	第51回 京浜アシュラム 奉仕者　江口　公一師	0467－65－7896 江口公一師
19(木)〜21(土)	修道場アシュラム 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター
28(土)	第７回 四国一日アシュラム 奉仕者　榎本　恵師	0748－33－4030 アシュラムセンター

12月以降のアシュラム予定

12/2(水)	合同平和祈祷会 PM3:00（アシュラムセンター）
12/5(土)	クリスマス礼拝＆祝会 （カフェちいろばバイキング）
1/11(月)〜13(水)	第52回 年頭アシュラム



←9月、九州アシュラム（連盟）にて。これからも共に。



←10月3日(土)、帰国前アベル門宣教師との早天祈祷会。Zoom参加の皆様共に。

みことば


樋口畑 元気印のゴーヤ

京都大学名誉教授
アシュラムセンター研究員
河崎靖

スタンリー・ジョーンズと クリスチャンアシュラム運動⑦

インドのラクナウにあるアシュラムは、宣教師スタンリー・ジョーンズの精神的な故郷である。彼は『インディアン・ロードのキリスト』の著者で、インドの人々は彼のことをリシ（聖人）と呼んでいる。ある年のアシュラムでジョーンズは友人たちに神の国について語っている：「これ[1]が人類の唯一の希望だと確信した。[…]私の心は喜びでいっぱいである」。これほどまでに宣教の熱意に満ち溢れているのである。

さて、ジョーンズ自身は、キリスト教を他の宗教と比べて相対化することは見られないが、『聖書』の中に、実は他の宗教に言及している個所がある。具体的には「出エジプト記」12章12節で、こう記されている：「その夜わたしはエジプトの国を通り巡り、エジプトのすべての初子（人間も獣も）を打つ。わたしはエジプトの神々に裁きを下す。わたしは主である」。これは、キリスト教の神が他の神々よりも強いことを示していて、確かに、異なる信仰システムとの対比が顕在化している。しかしながら、これは他の宗教を否定するために書かれたわけではなく、キリスト教の神がどれほど力強く信頼できるかを示すためのものである。

このようにキリスト教アシュラム運動は、当初インドで根付いたのであった。現地での活動としては、親密なグループ（インド人）と共に深い学びと内省ができる霊的なリフレッシュのリトリートの必要性を感じたジョーンズは、キリスト教信仰を普遍的な信仰と想定しながらも、インドの文化という文脈におくべきだと考え、先住民の形態を用いてメッセージを表現することで、恩恵を受けることができるという実態を見出した。そこで彼はアシュラムという言葉を使い、親しきグループとの交わりを重視した。現地での諸概念をキリスト教化するが、あくまでイエス・キリストを教師とする。危険なのは、彼らとの密接な交わりなしには、伝道者たちが知らず知らずのうちに、教条的で自信過剰な言葉で他人に指示を出してしまっている状況に陥ることであり、この点をジョーンズはよく感知していた。

1　キリスト教の教えのこと。



〈早天祈祷会にて誕生者への祈り・アベル門宣教師も〉今日お誕生日のお一人お一人、主の大切な器です。どうか、その一つ一つの器をいつも顧み、何度も何度も練り直して下さっている主を信じ、その道を歩んでいくことができますように。恵（エレミア書18章9月16日）